

平成14年度業務報告

平成14年度の事業につきましては、先に決定された平成14年度事業計画にもとづき、次のとおり実施しましたのでご報告いたします。

会員数は、別表1(省略)のとおり、平成15年3月7日現在、正員90,223名、家族会員4,657名、准員485名の合計95,365名となっており、引き続き減少しております。

このような状況のなかで、本年6月に開催される世界無線通信会議(WRC - 03)に向けた積極的な対応を行ったほか、連盟創立75周年・アマチュア無線再開50周年の記念式典の開催および関連した事業を実施すると共にアマチュア無線の活性化と会員増強をはかるため、ワールドカップにちなんだ特別記念局の開設や関連アワードの発行、「JARL Web」をはじめとしたインターネットサービスの充実、アマチュア無線への受信障害が懸念される電力線搬送通信(PLC)に対する積極的な対応、アマチュア無線のデジタル化として研究してきたD-STARの実用化に向けた取り組みを行いアマチュア無線の楽しみの多様化および新技術の開拓に努力しました。

また、財政改善の取り組みとしてJARL NEWSの経費削減、QSLカードの転送制度の見直しや会費前納制度などについて幅広い見地から検討を行いました。

1. アマチュアバンドの拡充と防衛

(1) 本年6月に開催される世界無線通信会議(WRC - 03)で7MHz帯のバンド拡充や430MHz帯のバンド防衛などに成果を得られるよう、次のような準備会合や作業部会に出席しました。

平成14年5月8日から14日、9月17日から25日まで、スイス・ジュネーブにてアマチュア業務およびアマチュア衛星業務を所管する無線通信部門(ITU - R)の第8研究委員会(SG8)の関連会合である第8A作業部会(WP8A)が開催され職員1名が出席しました。

平成14年6月10日から15日まで、タイ・バンコクにてアジア太平洋通信共同体(APT)のWRC - 03にむけた第3回準備会合(APG2003 - 3)が開催され職員1名が出席しました。

平成14年8月26日から31日まで、韓国・釜山にてAPTのWRC - 03にむけた第4回準備会合(APG2003 - 4)が開催され職員1名が出席しました。

平成14年11月18日から29日まで、スイス・ジュネーブにてWRC - 03にむけた会議準備会合(CPM02 - 2)が開催され職員1名が出席しました。

平成15年2月19日から25日まで、東京にてAPTのWRC - 03にむけた第5回準備会合(APG2003 - 5)が開催され職員2名が出席しました。

(2) アマチュア無線への受信障害が懸念される電力線搬送通信(PLC)や超広帯域通信方式(UWB)に対し次のような活動を行いました。

総務省が主宰した「電力線搬送通信設備に関する調査研究会」の会合

や実験に参加し、アマチュア無線等への受信障害防止に対して積極的な対応をはかりました。

マイクロ波帯を広帯域に使用するUWB無線システム関係の会議に出席し、情報の収集と対応策について引き続き検討を行いました。

2. アマチュア無線制度の改善

- (1) アマチュア無線のデジタル技術の導入に向けて、高速度のデジタル通信などの実験が行えるように周波数の使用区別の改正、レピータ局のインターネット等の公衆網への接続の条件、現在使用している電波型式の表示を新しい電波型式（現在アマチュア局以外の無線局で使用しているものと同じ）に改めることなどについて総務省に要望しました。
- (2) 50MHz帯において500Wを超え1kW以下の空中線電力の指定について、電波法関係審査基準の一部改正が行われ、平成15年2月10日から各総合通信局（沖縄総合通信事務所を含む）で審査し、免許できるようになりました。この改正に備えJARLでは50MHz帯のスプリアスや高調波がテレビ放送に与える影響などを調査するための実験を実施しました。

3. 国際協力の推進

- (1) 平成14年8月24日から25日まで東京ビッグサイトで開催したハムフェア2002に参加したCRSA（中国）、VARC（ベトナム）、ARRL（米国）の役員・職員および海外からのお客様とアマチュア無線の情報交換と友好親善を行いました。
- (2) 平成14年9月2日から7日まで、ARDF世界選手権大会がスロバキア・タトランスカマトリアにて開催され、JARLからJA1HQG有坂参与を団長に選手団を派遣しました。
- (3) 平成14年9月5日から7日まで、台湾・台北市にてIARU第3地域理事会が開催され、JARL職員1名を派遣しました。
- (4) 平成14年10月6日、北海道砂川市にて開催された全日本ARDF競技大会に韓国選手団が参加しました。
- (5) IARU第3地域のSTARS（アマチュア無線発展途上国の支援）タスクフォースとして教育資材をトンガ、ブータン、ネパールに送付しました。
- (6) IARU第3地域事務局を引き続きJARL事務局内に設置しました。
- (7) IARUの国際ビーコンプロジェクトを継続して行いました。
- (8) JARL創立75周年記念式典に出席するために来日した外国アマチュア無線団体首脳をはじめ、多くのアマチュア無線関係者と意見交換を行い、友好を深めました。

4. アマチュア無線活動の育成強化

- (1) 各支部において、上級資格の国家試験受験のための指導講習会のほか、アマチュア無線に関する各種講習会、研究会などを開催しました。

- (2) モールス電信技能認定を平成14年8月のハムフェア2002会場（東京ビッグサイト）および平成15年2月に連盟事務局で実施しました。認定数と免状交付枚数は別表2(省略)のとおりです。
- (3) コンテストについては、別表3(省略)のとおり7種類のコンテストを実施したほか、地方本部や支部主催によるコンテストを多数実施しました。
なお、平成14年度から国内コンテストについても電信・電話部門と切り離した電話部門を新設するなど一部規約を改正し、あわせて、ドナー制度およびコンテスト・アワードを導入しました。
- (4) 情報通信の普及・振興をはかることを目的とした「情報通信月間」の行事に協賛して「第10回テレコムQS0パーティー」を実施するなどしました。
- (5) アワード発行については、別表4(省略)のとおり、JARL創立75周年記念アワードおよびサフィックスCアワードを含め、国内アマチュア局5,096枚、SWL64枚、海外アマチュア局299枚の合計5,459枚を発行し、このほかWACアワードの代行申請を143件行いました。
なお、DXCCフィールドチェックは、ハムフェア2002および関西ハムの祭典でのチェックを含め524件の申請を受け付けました。
- (6) レピータ局およびビーコン局を別表5(省略)のとおり開設・運用しました。
- (7) ワールドカップの記念局を含め、特別記念局などを別表6(省略)のとおり開設し運用しました。
- (8) 2002アマチュア無線フェスティバル（ハムフェア2002）の開催
2002アマチュア無線フェスティバルは、2001年までのパシフィコ横浜から東京・有明の「東京ビッグサイト 西3・4ホール」に会場を移し、会期を8月24日、25日の2日間として開催しました。
「JARL誕生75年 リフレッシュ・ハムフェア」をキャッチフレーズに、JARL創立75周年、戦後のアマチュア無線再開50周年にあわせた「JARL75周年記念特別展示」ほか、D-STAR、ARISSなどを取り上げ、来場者の注目を集めました。
会場では、クラブやビジネス団体の展示や販売をはじめ、特別記念局8N1HAMの運用や工作教室、リサイクルコーナー、イベントコーナーなど、例年同様の賑わいを見せ、会期中の来場者は延べ28,000人でした。
- (9) ARDF競技
ARDF競技については、平成14年10月6日北海道砂川市で「2002全日本ARDF競技大会」を開催し、全国各地および韓国から114名の参加がありました。
地方ARDF競技大会は別表7(省略)のとおり開催しました。
- (10) 技術関係
ハムフェア2002にアマチュア無線のデジタル化推進プロジェクトであるD-STARの無線機を展示しその普及に努めたほか、D-STARのアプリケーションなどについて検討を行いました。
マイクロ波活性化の資料とするため、マイクロ波局名録を制作・頒布しました。

自作機器の測定サービスや電話などによる技術相談を受け付けました。

5. JARL創立75周年記念行事の実施

本連盟の創立75周年および戦後アマチュア無線が再開されて50周年を迎え、平成14年11月15日に東京・千代田区のホテル・グランドパレスにおいて記念式典、祝賀会を開催しました。全国から約400名の会員および関係者が出席し、多年にわたりアマチュア無線の発展に寄与された団体、企業、個人へ表彰状・感謝状を贈りました。

また、この行事をアマチュア無線の活性化と結びつけるよう、JARL創立75周年にふさわしい小笠原父島DXペディションをはじめとする、公募による記念運用、各地方本部による記念運用を行うとともに記念アワードの発行などを含めた関連事業を実施しました。

6. 会員の増強と会員事業の改善

(1) 会員サービスの充実

会員専用のクレジットカード機能を有する便利なカードとして、平成12年8月からJARLカードを導入していますが、平成15年3月31日現在の発行枚数は、9,843枚となりました。

アマチュア無線機器総合保険（アンテナ第三者賠償責任保険ほか3種類）の取り扱いやJARL会員ホテル宿泊割引制度、パッケージ旅行割引制度など、引き続き会員特典の充実に努力いたしました。

平成14年8月からJARL Webに会員専用ページを開設し、会員にとって便利なサービスが提供できるよう内容の充実をはかりました。会員専用ページの利用登録者数は、平成15年3月31日現在で15,944名となっています。

平成15年3月10日から20日までの間、jarl.comサーバーの移転とメンテナンスを行いました。同3月21日以降はJARL Eメール転送サービスについての登録・変更・解除をオンラインでJARL会員専用ページにおいて会員自らおこなえるようにしました。このほか、ML提供サービス、Webサイト提供サービスおよび分野別Webリンクサービスを前年度に引き続き行いました。

なお、Eメール転送サービス登録者数は、平成15年3月31日現在16,377件となっています。

(2) 会員の増強

平成14年度会員増強キャンペーンは平成14年12月1日～平成15年1月31日までの2ヵ月間実施し、期間中692名の入会がありました。

QSLビューローに届いたQSLカードのうち、非会員あてのカードを対象に年度内で、6回の再入会依頼を実施しました。

会員の増加をはかるため、JARD、JAIA、(財)日本無線協会と協力してアマチュア無線の普及に努めました。

(3) QSL・SWLカードの転送

QSL・SWLカードの取扱処理枚数は別表8(省略)のとおり、国内外合わせて約1,456万枚で、前年度(平成13年度)より244万枚減少しました。

(4) 広報活動

JARL NEWS, 点字JARL NEWSなどを発行し、会員や関係者の方々に配布しました。

電子情報サービスについては、次のとおり行いました。

- (A) インターネットのホームページ「JARL Web」の充実に努めました。また、JARL Webにより、各種情報の提供および結果報告などを積極的に行いました。
- (B) 「JARL Web」において、「THE JARL NEWS」(英文)ほか、英文による各種情報の提供を行いました。
- (C) 「JARL Web」において、青少年を中心としたアマチュア無線活動の活性化のためのコンテンツを設けるなどして、積極的に次世代を担う若者のアマチュア無線活動の支援を行いました。

7. 組織および事業運営の合理化の推進

- (1) JARLの事業運営と財政改善をはかるため、JARL NEWSの経費節減、QSLカードの転送制度の見直しや会費前納制度などについて幅広い見地から検討を行いました。
- (2) 連盟事務局の2フロアを返却するとともに事務局組織の一部を変更し経費の削減に努めました。
- (3) JARL NEWSについては、年度内3回の合併号の発行や記事の一部をJARL Webに掲載するなどして経費の削減に努めました。
- (4) QSL発送時の郵便料金大口割引制度の利用や宅配便を利用したQSLカードの発送により、引き続き転送経費の効率化に努めました。

8. 電波環境のクリーン化

- (1) アマチュア局からの電波障害対策依頼への対応を行いました。
- (2) アマチュア局が原因で障害を受けている一般の方々からの電波障害対策への対応を行いました。
- (3) ガイダンス局(特別業務の局)により、使用区別を逸脱(レピータ、衛星周波数を含む)している局、呼出符号の送出不完全な局および業務通信を行っている局に対して注意を喚起する広報を行いました。
- (4) アマチュア局の運用指導、電波障害防止対策の指導などを実施しました。
- (5) HF帯の侵入電波の調査を監査指導委員および会員の協力を得て実施し、定期的に総務省、IARUなどの関係機関に報告しました。

9. アマチュア衛星など宇宙通信の促進

- (1) 「ふじ3号(F0-29)」、「ふじ2号(F0-20)」の機能の調整を行うとともに

に、全世界のアマチュア無線家に利用してもらうため、管理運用を行いました。

- (2) 平成14年12月5日から7日まで、米国・ワシントンDCにてARISS（国際宇宙ステーション内のアマチュア無線局の設備を開発・運用するためのプログラム）の会議が開催され、JARL職員1名が日本代表として出席しました。
- (3) 青少年にアマチュア無線の楽しさや宇宙開発、通信技術への興味をかきたてる貴重な経験をしてもらうために昨年に引き続き、ARISSスクールコンタクトを推進し、国際宇宙ステーションと交信が行われました。

10．非常災害時への態勢整備

- (1) 非常通信協議会との連携をはかるとともに、地方公共団体などとの非常通信に関する具体的な連携をはかりました。
- (2) 「寄附金付お年玉付郵便葉書・郵便切手に付加される寄附金の配分」を受けて非常通信用無線機器の整備を行い、ハンディー・トランシーバー30台を連盟補助局に配備しました。

11．JARDとの連携

アマチュア無線の育成などの分野でJARDと協力して施策の推進をはかりました。

12．身体障害者に対する援助・協力

身体障害者のアマチュア無線活動を充実したものとするため、点字JARL NEWSの発行や小・中学校および主たる構成員が身体障害者の団体が開設している社団局に助成金の交付を行うなど積極的な援助活動を行いました。

13．その他

- (1) 理事会、評議員会をはじめ各種委員会などを、別表9(省略)のとおり開催しました。
- (2) 刊行物事業については、前年度と同様、アマチュア無線関係の申請書類などを頒布するとともに、一部ARRL刊行図書の代理頒布を行いました。また、頒布開始後一定期間を経過し、扱い数の減少している販売品の整理を行いました。